

## 第2学年 生活科学習指導案

### 1. 単元名「大すき○○パート2～○○はみんなの楽しい町～」

### 2. こんな子どもだから

- 2年生の後期になると、少しずつ公共心が芽生え、「みんなのもの」という見方・考え方が育ってくる。1学期の生活科の学習では、「自分のお気に入り」という視点で数回の探検活動を行い、その中に、公園等の公共施設も含まれていながら、自分のお気に入りの場所は「みんなもお気に入り」であるということには気付いていない。【関心・意欲・態度】
- 2年生の子どもたちは、表現方法として、絵や作文、パンフレット、歌や群読・発表会など様々な方法を経験している。思考の傾向としては、自分とのかかわりで対象をとらえることに加え、少しずつ客観的に物事を見る力も育ってきている。【思考・表現】
- 1学期の探検や生活経験から、地域にある公共施設はみんなが利用するものであるという事実には気付いている。しかし、みんなが気持ちよく使えるように公共物があり、支えている人がいる点には気付いていない。また、みんなのものである公共施設を気持ちよく利用すべき一員であるという自覚をもつまでには至っていない。【気付き】

### 3. こんな教材で

- ① **本質性**  
本単元は、学習指導要領の内容の(4)と(3)を具現化した単元である。○○の町には、多数の公共施設が集まっている。また、地域の中には、○○に誇りをもち、自主的に掃除をしたり、安全の設備を工夫したりといった取組をしている人たちがいる。これらの公共施設が自分たちの生活を豊かにしていることや、多くの地域の人たちが施設を支えていることを子どもたちに気付かせることは、地域への愛着を深める上で価値がある。
- ② **課題性**  
公共物や公共施設は自分たちの生活を豊かにしてくれている。また、それらを支える人が存在し、さまざまな人が利用している。それは、自分を中心として対象をとらえる低学年の児童にとって、意識して見なければ気付くにくいことである。本単元は子どもたちが公共施設を繰り返し利用し、友達と交流しながら気付きを広げ深めていく活動が可能である。
- ③ **発展性**  
公共物やそれを支える人々、ルールやマナーなどの気付いたことを、地域の人(GT及び利用者)に発信することで、地域の中で役割を果たせたという有用感を感じることができる。それにより、公共施設をマナーを守って利用したり、自分のできることを行っていこうとしたりする生活への発展が期待できる。

### 4. こんな支援で

- 「受ける」段階
  - 地域の公園を学年全体で利用する共通体験から、気付いたことをもとに交流を行うことで、課題1を設定することができるようにする。
  - 公共物や公共施設を繰り返し利用し、GTから、公共施設にまつわる思い出や、公共施設への思いを聞いたり、協働活動を行ったりすることで、GTに親しみがもてるようにし、公共施設を大切にしようとする意識を高める
  - 交流場面や発表場面において、友達や保護者、GTに自分の気付きを認め賞賛してもらうことで、有能感を高める。
  - 学習を通して気付いたことを地域の人(GT及び利用者)へ伝える活動のよさを保護者ボランティアに価値付けてもらうことで、課題2を設定する。
- 「返す」段階
  - 公共施設を繰り返し利用する中で分かったことや考えたことを、地域の人に発信する計画を立てることで、「受けた」ことを「返す」という意識をもつことができるようにする。
  - 学習を通して気付いたことを公共施設に行って地域に発信することで、学んだことを地域の中で役立てたという有用感を高める。

### 5. こんな子どもに

- 公共物や公共施設を利用し、それらを支える人々と進んでかかわることができる。
- ○○の人・もの・ことをより身近に思い、地域の人と共に町を大切にしていこうとすることができる。【関心・意欲・態度】
- 公共物や公共施設の利用について分かったことや考えたことを地域の人に伝えることができる。【思考・表現】
- ○○の町には、いろいろな公共物や公共施設があること、また、それらを気持ちよく利用できるように支えている人たちの思いや願いに気付くことができる。
- 公共物や公共施設を大切に利用できるようになった、自分の成長に気付くことができる。【気付き】

## 6. 学習活動計画（計28時間）

段階	問題解決の学習過程	地域との双方向の関係づくりを成立させる支援	配時
受 け る	<p>1. 課題をつくる。⑦</p> <p>(1) 身近である学校をいろいろな人が使っていることや、大すき〇〇パート1の想起から、パート2ではみんなが使う場所を利用しに行くことを話し合う。</p> <p>(2) 塩原中央公園に行く計画を立てる。</p> <p>(3) 学年全体で塩原中央公園を利用し、気付いたことや思ったことをまとめる。</p> <p>(4) 前時を振り返り、公共施設にはさまざまな人がいて、いろいろな公共物があることに気づき、課題1を設定する。</p>	<p>※ GTに学習内容を前もって知らせ、協力の依頼をしておく。</p> <p>※ 話の聞き方やあいさつ、きまりやマナーを事前に指導し、利用している人と気持ちのよい交流ができるようにする。</p>	<p>1</p> <p>1</p> <p>4</p> <p>1</p>
	<p>課題1</p> <p><b>〇〇の町にでかけて、みんなでつかうものをりょうしてみよう。</b></p>		
	<p>2. 公共物や公共施設を利用する。(1回目)④</p> <p>(1) 公共施設を利用する計画を立てる。</p> <p>(2) 自分たちの課題にもとづき、グループごとに公共施設を利用する。</p> <p>(3) 利用して気付いたことをカードにまとめ、塩原中央公園での気づきと比べる。</p>	<p>※ GTが日常的に行っている活動をしてもらい、子どもたちが公共施設を支援している人の存在に気付くことができるようにする。</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>1</p>
	<p>3. 公共物や公共施設を利用する。(2回目)④</p> <p>(1) もっと知りたいことややりたいことをもとに、再度利用する計画を立てる。</p> <p>(2) 公共施設を利用したり、GTから施設にまつわる思い出や施設への思いを聞いたりする。</p> <p>(3) 2回目の利用で気付いたことをカードに書き加える。</p>	<p>※ GTに日常的にしている活動や公共施設にまつわる思い出、公共施設への思いを聞くことで、GTに親しみを感ずることができるようにする。</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>1</p>
	<p>4. 公共物や公共施設を利用する。(3回目)④</p> <p>(1) 3回目の利用を計画する。</p> <p>(2) 公共施設をルールやマナーを守って利用したり、GTと活動したりする。</p> <p>(3) 3回の利用を通して気付いたことや思ったことを発表カードにまとめる。</p>	<p>※ GTと共に活動することで、子どもたちがGTへの愛着をもち、進んでかかわることができるようにする。</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>1</p>
	<p>5. 〇〇はみんなの楽しい町発表会をする。④</p> <p>(1) 発表会の練習と準備をする。</p> <p>(2) 発表会を行う。</p>		<p>1組 本時 (3/4)</p>
つ な ぎ の 交 流	<p>(3) 楽しく利用できるようになった理由を話し合い、課題2を作る。</p> <p>課題2</p> <p><b>みんなでつかうものをりょうして分かったことや考えたことを、地いきの人に伝えよう。</b></p>	<p>※ 保護者ボランティアに、公共施設を利用して気付いたことを認め、賞賛し、新しい活動を価値付けてもらうことで、課題2に取り組む意欲をもつことができるようにする。</p>	<p>2組 本時 (4/4)</p>
返 す	<p>6. 分かったことや考えたことを地域の人に伝える。⑤</p> <p>(1) 伝える計画を立て、準備する。</p> <p>(2) 公共施設に行き、地域の人に分かったことや考えたことを伝え、マナーやルールを守って利用する。</p> <p>(3) 学習全体を振り返る。</p>	<p>※ GTや地域の人に子どもたちが分かったことや考えたことを聞いてもらうことで、子どもたちの地域への愛着を深めることができるようにする。</p>	<p>3組 本時+1 (1/5) 2 1</p>

## 8. 本時の目標

- ○○の町にはいろいろな公共施設や公共物があり、そのどれにも施設を支えている人がいることや、正しい使い方があることに気付くことができる。【気付き】
- 伝え合う活動を通して、分かり合える楽しさやよろこびを感じ、意欲的に発表したり聞いたりすることができる。【関心・意欲・態度】

## 9. 本時指導の考え方

本時は、公共施設の3回の利用で感じた楽しさを伝え合う発表会の場面である。この発表会では、○○の町には公園や公民館等の公共施設があり、そこにはみんなが利用できる公共物があること、友達の発表を聞いて、利用した楽しさは、どれにもそれを支えている人や正しい使い方によることに、気付くことができることをねらっている。さらに、伝え合う活動を通して、情報が双方向に行き来する楽しさや、分かり合える喜びを感じ、意欲的に発表したり聞いたりすることができることもねらっている。

そこで、本時では子ども一人一人が見つけた楽しさを伝え合えるように、どんな利用をして何が楽しかったか、なぜ楽しかったのかを絵や文で表現した発表カードにまとめさせておく。発表会では発表者が相手意識をもって発表しやすく、聞き手が質問や感想を伝えやすい1対少人数で発表する形態で行う。他の公共施設を利用した友達の発表を聞くことで、友達はそれぞれに違う楽しさに出会っているが、どの公共施設にもそれを支えている人がいて、正しい使い方を守ることが楽しさの秘密であり、公共施設を利用すると自分たちの生活が楽しく豊かになることに気付くようにする。発表後には友達や教師に一人一人の頑張りやよさを認め、賞賛してもらうことで有能感を高める。

後半では、発表会を振り返り、気付いたことや思ったことを書いて発表する。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の3点である。

- ① 複数の公共施設についての発表を聞くことで、自分が利用した施設との違いはあるが、どの施設にも楽しさがあり、それを支えている人がいることや、正しい使い方があることに気付くことができるようにする。
- ② 友達や教師から、公共施設で学んだことについて認め、賞賛してもらうことで有能感を高める。
- ③ 聞き手が質問や感想を伝えやすい1対少人数での交流活動を繰り返し行うことで、伝え合う楽しさを実感できるようにする。

## 10. 準備

(教師) 合図の音楽

(子ども) 発表カード、看板、自己評価カード

## 1 1. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時のめあて 「〇〇はみんなの楽しい町はっぴょう会」をしよう。</p> </div> <p>2. 発表会を行う。</p> <p>(1) 聞いてくることを確認する。 《聞いてくること》</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① 楽しかったこと ② 楽しかったわけ</p> </div> <p>(2) 前半の人は発表し、後半の人は発表を聞き質問や感想を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ K公園には亀の遊具があって、大きなすべり台を友達と一緒にすべるととても楽しかったです。楽しかった訳は、大きな亀の遊具があったからです。 (楽しいものがある)</li> <li>○ 図書館では、読み聞かせをしてもらって楽しかったです。GTがおもしろい本を読んでもくれました。楽しかった訳は、GTが読み聞かせをしてくれたからです。 (楽しくしてくれる人がいる)</li> <li>○ R公園では、広場でグラウンドゴルフをさせてもらいました。クラブをみんなで順番に使って、遊ぶことができました。決まりを守ってけんかをせずに行きました。 (決まりを守って利用する)</li> </ul> <p>(3) 後半の人は発表し、前半の人は発表を聞き質問や感想を伝える。</p> <p>3. 本時を振り返り、自己評価カードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達の楽しかったことが分かったか</li> <li>○ 友達が楽しかった訳が分かったか</li> <li>○ 友達の発表を聞いて思ったこと 体育館のグループは終わった後に、掃除をしていました。ぼくたちの公民館でも、掃除をするところは同じでした。公園を使うときも、使った後はきれいにしておくといいと思います。(比べて思ったこと)</li> </ul> <p>4. 教師の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの学習への賞賛</li> <li>○ 次時の学習の確認</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今日の学習では、みんなの伝え合いでどの公共施設にもみんなが使いやすいように工夫があることに気付きましたね。〇〇の町の人が公共施設を支えてくれていることもたくさん分かりましたね。(賞賛) もっともっと利用していきたいですね。次の時間にはこれまでの学習を振り返って、次の活動についてみんなで考えていきましょう。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p><b>【観点】</b> 気付き</p> <p><b>【評価規準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 〇〇の町には公園や公民館等の公共施設があり、そこにはみんなが利用できる公共物がある。友達の発表を聞いて、利用した楽しさは、どれにも施設を支えている人や正しい使い方によることに、気付くことができる。</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b> 表情・発表・自己評価カード</p> <p><b>【観点】</b> 関心・意欲・態度</p> <p><b>【評価規準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伝え合う活動を通して、情報が双方向に行き来する楽しさや、分かり合える喜びを感じ、意欲的に発表したり聞いたりすることができる。</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b> 表情・発表・自己評価カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 複数の公共施設の発表を聞いて、自己評価カード(①発表会で気付いたこと・分かったこと②次にやりたいこと)を書かせることで、気付くことができるようにする。</li> <li>○ 1対少人数の形態で発表し合うことで、発表者は発表しやすく、聞き手は質問や感想を伝え合いからくる有用感・有能感を実感することができるようにする。</li> </ul>

## 8. 本時の目標

- 「みんなでつかうものをりょうして分かったことや考えたことを、地いきの人(G Tと利用者)につたえよう」とする意欲をもつことができる。 【関心・意欲・態度】

## 9. 本時指導の考え方

本時は、3回の公共施設の利用と前時の発表会を振り返ってG Tにお世話になったことを想起し、課題2をつくる場面である。公共物や公共施設を繰り返し利用して分かった楽しさや楽しく利用できたわけ、自分たちの成長をG Tや利用者に伝えようとする意欲をもつことをねらっている。

そこで、まず前時の自己評価カードをもとに、発表会で思ったことを振り返り、公共施設にはさまざまな公共物があり、それを支えているG Tがおり、みんなが気持ちよく利用できるためのルールやマナーがあることを発表し、板書でまとめる。これらのことを通して、公共施設を利用する中でたくさんの方に気付くことができたのはG Tのお陰であることを友達同士で確かめ合う。次に、これからやりたい活動として、G Tに発表カードを見せるなどの活動を発表する。それから、3回の利用の際に引率した保護者ボランティアから、楽しく利用できたわけに気付くことができたこと、これからG Tに伝える活動のよさを賞賛してもらおう。加えて、3回の利用で子どもたちが正しく利用できるようになった姿について話してもらい、子どもたちの成長に気付かせてもらおう。そして、G Tや公共施設を利用する人に成長したことを発表するよさを伝えてもらおう。自分の成長と、地域の人たちへ発信することの価値を聞くことで、活動の意欲をもたせ、「みんなでつかうものをりょうして分かったことや考えたことを地いきの人につたえよう」という新たな課題を設定する。

最後に、本時学習を振り返って、自己評価カードを書き、次時への意欲を高める。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の3点である。

- ① 子どもたちがこれからやりたい活動を発表することで、地域の人に伝えようとする主体的な意識をもたせる。
- ② 保護者ボランティアから子どもたちの考えを直接認め、賞賛してもらったり、公共施設を気持ちよく利用できるようになった子どもたちの変化を話してもらったりすることで、自分の成長を実感することができるようにする。
- ③ 保護者ボランティアから、課題2を価値付けてもらおうことで、実際に活動する意欲をもつことができるようにする。

## 10. 準備

(教師) 前時までの学習を整理した掲示物、保護者ボランティア

(子ども) 生活科ファイル、自己評価カード

## 11. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時のめあて はっぴょう会をふりかえって、これからの かつどうを話し合おう。</p> </div> <p>2. これからの活動を話し合う。            (1) 前時の学習で使用した自己評価カードをもとに            楽しく利用できたわけを発表し合う。  <input type="radio"/> 楽しいものがあるから。  <input type="radio"/> 楽しくしてくれる人がいるから。  <input type="radio"/> 決まりを守って利用するから。            (2) どんな活動がやりたいか発表する。  <input type="radio"/> G Tに発表カードを見せたい。  <input type="radio"/> G Tにお礼をしに行きたい。  <input type="radio"/> G Tと一緒に遊びたい。</p> <p>3. 保護者ボランティアの話聞く。  <input type="radio"/> 新たな活動の価値付け  <input type="radio"/> 子どもの成長への賞賛  <input type="radio"/> G Tや公共施設を利用する人に成長したことを発表するよさを伝える新たな視点の追加</p> <p>4. 課題2を設定し、計画の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題2 みんながつかうものをりょうして、分かったことや 考えたことを地いきの人につたえよう。</p> </div> <p><input type="radio"/> だれに(地いきの人) <input type="radio"/> どこで(りょうした場所)  <input type="radio"/> いつ <input type="radio"/> なにを <input type="radio"/> どうやって</p> <p>5. 今日の学習を振り返って、自己評価カードを書く。  <input type="radio"/> 今日の学習で思ったこと  <input type="checkbox"/> 自分の成長に気付いたこと  <input type="checkbox"/> 次にやりたいこと</p> <p>6. 教師の話聞く。  <input type="radio"/> 子どもの学習への賞賛  <input type="radio"/> 次時の学習の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今日の学習では、公共施設を利用してきたことを振り返って、楽しく利用できた訳が分かりました。そして、〇〇さん(保護者ボランティア)の話聞いて、地域の人に伝える活動をしようとする気持ちが出ました。(賞賛)            次の時間は、地域の人に伝える計画を立てましょう。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p><b>【観点】</b>            関心・意欲・態度</p> <p><b>【評価規準】</b>  <input type="radio"/> 公共物や公共施設を繰り返し利用して分かった楽しさや楽しく利用できたわけ、自分たちの成長をG Tや利用者に伝えようとする意欲をもつことができる。</p> <p><b>【評価方法】</b>            発言・表情・自己評価カード</p>	<p><input type="radio"/> 保護者ボランティアから、これまでの学習で分かったことや考えたことを認め賞賛し、課題2を価値付けしてもらうことで有用感・有能感を味わわせるようにする。</p>

### 8. 本時の目標

- 公共施設の利用を通して分かったことや考えたことをグループで話し合いながら、地域の人に伝える計画を立て、準備にとりかかることができる。【思考・表現】
- 「みんなでつかうものをりょうして分かったことや考えたことを、地いきの人につたえよう」とする意欲を高めることができる。【関心・意欲・態度】

### 9. 本時指導の考え方

本時は、前時に設定した課題2を受けて、その具体的な計画を立てる場面である。公共施設を繰り返し利用して分かったことや考えたことをグループで話し合いながら、G Tや利用者に伝える活動の内容や方法を決め、準備にとりかかることができることをねらっている。さらに、公共物や公共施設を繰り返し利用して分かったこと(公共施設利用の楽しさ・楽しく利用できたわけ・自分たちの成長)をG Tや利用者に伝えようとより高い意欲をもつこともねらっている。

そこで、本時では、まず公共施設の利用で自分たちが分かったことや考えたことをクラス全体で話し合うことで、計画の見通しをもたせる。次に、同じ施設を利用したグループ(同質グループ)に分かれて、生活科ファイルを見たり、話し合ったりしながら、自分にできる活動計画を計画カードに書く。同質グループで話し合うことで、アドバイスをしたり受けたりできるようにし、活動の内容や方法を決めやすくするとともに、準備を楽しくできるようにする。そして、活動が決まったグループから順次準備を始めることで、伝えたいという意欲を高める。

最後に、自己評価カードに準備の進み具合や、次時に必要なもの、今日の学習の振り返りを書く。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の4点である。

- ① 自分たちが分かったことや考えたことをクラス全体で話し合うことで、どんな計画を立てればよいか考えやすくする。
- ② 同質グループで交流することで、活動のアドバイスをしたり、アドバイスを受けたりすることができるようにする。
- ③ 生活科ファイルをもとに気付きを振り返ることで、地域の人に伝える内容を決めやすくする。
- ④ 取組が決まったグループからすぐに伝える活動の準備をすることで、伝えようとする意欲を高める。

### 10. 準備

(教師) 準備に必要なもの

(子ども) 生活科ファイル、計画カード、自己評価カード、準備に必要なもの

## 1 1. 展開

学習活動と内容	評価規準	支 援
<p>1. 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>課題 2</b> みんなでつかうものをりょうして分かったことや考えたことを、地いきの人につたえよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>本時のめあて</b> 地いきの人につたえに行く計かくを立て、じゅんびをしよう。</p> </div> <p>2. 公共施設の利用で自分たちが分かったことや考えたことを伝えるための内容や方法をクラス全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 誰に（地域の人）</li> <li>○ どこで（利用した場所）</li> <li>○ いつ（11月6日）</li> <li>○ 何を             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習して分かったことや考えたこと</li> <li>・ お礼の気持ち</li> <li>・ 親しみの気持ち</li> </ul> </li> <li>○ どうやって             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表カードを見せる。</li> <li>・ 寄せ書きや手紙を書く。</li> <li>・ 一緒に話をしたり遊んだりする。</li> </ul> </li> </ul> <p>3. 同じ施設を利用したグループに分かれて、生活科ファイルを見たり話し合ったりしながら、学習プリントにグループの計画を書く。</p> <p>4. 計画が終わったグループから、準備をする。</p> <p>5. 今日の学習を振り返って、自己評価カードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の人に伝える計画を立てることができたか。</li> <li>○ 自分がする活動・次時に必要なもの</li> <li>○ 準備の進み具合</li> </ul> <p>6. 教師の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの学習への価値付け・賞賛</li> <li>○ 次時の学習の確認</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今日の学習では、グループで話し合っ、地域の人にどうやって伝えるかの計画を立てることができましたね。そして、準備に取り掛かることもできましたね。きっと地域の人もあなたたちの成長をうれしく思い、しっかり聞いてくれると思いますよ。（価値付け・賞賛） 次の時間は、地域の人に喜んでもらえるように、準備の続きをしていきましょうね。（次時の学習の確認）</p> </div>	<p><b>【観点】</b> 思考・表現</p> <p><b>【評価規準】</b> ○ 公共施設を繰り返し利用して分かったことや考えたことをグループで話し合いながら、G Tや利用者に伝える活動の内容や方法を決めることができる。</p> <p><b>【評価方法】</b> 発言・計画カード</p> <p><b>【観点】</b> 関心・意欲・態度</p> <p><b>【評価規準】</b> ○ 公共物や公共施設を繰り返し利用して分かった楽しさや楽しく利用できたわけ、自分たちの成長をG Tや利用者に伝えようとする意欲を高めることができる。</p> <p><b>【評価方法】</b> 発言・表情・自己評価カード</p>	<p>○ 教師が巡回指導しながら計画を立てられたグループを賞賛したり、他のグループの取組を紹介したりすることで、活動を決めることができるようになる。</p> <p>○ 計画が決まったグループから準備をすることで、伝えようとする意欲を高めることができるようになる。</p>